

日本基督教団 八ヶ岳伝道所 主日礼拝 NO.1156 2021年1月24日

牧師 山本護 奏楽 山本恵美 第一部礼拝 司式 青柳明美 9:30~10:30
 ※讃美は二番まで歌います 第二部礼拝 司式 辻りち子 11:00~12:00

前	奏	黙想	祈	禱		
頌	栄	539 あめつちこぞりて	讃	美	歌	494 わが行くみち
祈	禱		献	金		
聖	書	民数記 33:38~39	讃	詠	547	いまささぐるそなえものを
		マタイによる福音書 17:1~3	黙	禱		
讃	美	歌 87B めぐみのひかりは	主	の	祈	り 564
説	教	『荒野の旅 40年』	頌	栄	543	主イエスのめぐみよ
		長崎 哲夫 牧師	祝	禱	後	奏

前回、民数記はギリシャ語訳の「数」でなく、ユダヤ教が採用する「荒野」が本旨なのでそれを採ると言った。此处ではイスラエルの人数、役割、祭儀、献げ物の規定もあるがそれ以上に旅の目的地カナンに向けての旅程(民 33)が示され、次第に申命記へ移る備えが記されている。

荒野とは、神の他頼るべき何ものも無き場のことだが、読者は民族の踏み行く大自然が生じる場所のイメージは次第に薄れて、彼らの前面に躍り出て立ち足はだかるものは飢えと渇きから、其処に巻き起こる人間の底知れぬ欲望、不信、疑惑の支配、己の義をのみ求め尽くすエゴの飽くなき姿が露呈する場のことであった。「精神の荒野」と言ったのはそのことで、わたしは昔から聖書は、「荒野の信仰」をもって一大テーマとなし、神は荒野にて救いの業をなす一大絵巻を展開されたと理解してきた。

神の似像(イマゴ・デイ)なる人間の悪と弱さと、しかしそれ故に神の人に齎す恵みはいや増すと教えたのは、モーセだった。神は荒野を行く民に「神の十戒」を授与して、「わたしの名の唱えられるすべての場所で、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する」(出エ 20:24b)と言われた。出エは、旅路の前半をラメセスから主の山・十戒の契約の地への記録で、途次モーセを指導者としてファラオの軍隊の追撃、飢えと渇きとの闘いを克服して辿り着いたのである。

民族の本格的な旅は、其処から再開した彼らの真の故郷「乳と蜜との流れる地」カナンへ向けてのものだった(民 10:11)。この間民族を根底から支え、導いたのは幕屋(民 9:15)と契約の箱であった(民 10:33)。モーセは契約の箱が宿営を旅立つ時、「主よ、帰って来てください」(民 10:35)と神を呼んだが、一方で民は他国人と共に神のマナに飽き足らず、潤沢な食べ物が豊富だったエジプトを懐かしんだ(民 11:1)。また目的地カナン偵察隊の報告に民は反抗を激化し(民 14:1)、レビの子孫すらも反逆した(民 16:1)。大きく見ればモーセへの不信・疑惑・後ろ向きの苦悶は、実は神の民への鍛錬の場だったのか。

民数記を支えたのは依然としてモーセだった。モーセは徹底して「謙遜」を貫いた(民 12:3)。モーセの姉ミリアムは、幼児期モーセの命を救いつつも(出 2:7)、「モーセの妻はクシュの女だ」(民 12:1)と非難したがツインの荒野で死に(民 20:1)、兄アロンもかつて「若い雄牛の鑄像」(民 32:4)を造って拝んだり、姉と共にモーセを批判したがモーセの代弁者(出 4:11)、祭司としてホル山で死んだ(民 33:38)。死は彼らに留まらず、神はネボ山からモーセにイスラエルに備えたカナンを見せ、モーセもまた死ぬ者として、後継者ヌンの子ヨシュアを任じる用意をさせた(民 27:22)。このレビ族一族は、他族同様の嗣業の土地の割り当ては無く、献げられたものの1割が割り当てられた(民 18:20)。

かつてイエスの変貌の山事件(マタイ 17:1)に際しペテロ・ヤコブ・ヨハネの三弟子は、モーセをエリヤと共にイエスと同等に扱う信仰を見せた。三弟子は様々な連想を働かせたのに違いないが、イエスはモーセを凌駕する存在と証した。(長崎哲夫牧師 説教要約)

本日の礼拝説教は長崎哲夫牧師にお願いしました。次に長崎牧師が説教して下さるのは、3/28です。インターネットを使っての「リモート礼拝」を配信し始めて1カ月が経ちました。礼拝に参加できない方には役立っているようで、コンピュータがなくてもスマホでも受信でき、どこにいても一緒に礼拝を献げられます。配信は公開し、礼拝全体は一日だけ保存し、説教は長期保存しています。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。